

誰もが、ケアラーになるのです

神川町における介護者の多くは、50歳代以上となっており、半数以上の方は仕事をしながら介護を行っています。全国的には「ヤングケアラー」と言われる、18歳未満からケアラーになっている子どもたちもいます。

『ヤングケアラー』とは？

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものことをいいます。

その子どもの人生に大きな影響を与えることもあります。また、ひとりで悩み、周囲に相談できないこともあります。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

介護に関する不安や疑問を、ひとりで抱えていませんか？

「介護は家族がするもの」？

ケアラーは、家族であることが多いですが、「介護は家族がするもの」という考え方に縛られていませんか？それが当たり前だと思っていないですか？

ケアを必要としている方にも、「その人らしさ」がありますが、ケアラーにも「その人らしさ」があります。ケアラー自身の休養や交流、趣味、遊び等を行う自分のための自由な時間も大切です。

介護は、みんなが初めてです

テレビや新聞、インターネットで介護のことは耳にしたことがあるでしょう。しかし、いざ自分が「介護」をするとなると、それは「初めての経験」になります。介護で起こる色々な出来事が、全て初めての事です。知らないこと、不安になること、分からないこと、大変に思う時があること…。そのようなことがあって当然なのです。



おつかれじゃ

ひとりで抱えず、まずは声に出して話してみましょう。

そして、周りに気づいてもらうことが大切です。

誰かを支える『あなたらしさ』のために

問合せ 地域包括支援センター ☎0495-74-1155 FAX0495-74-1156

進む高齢化と要介護者の増加

神川町の高齢化率は、32.1%で（行政区別年齢分布・令和3年8月末）、これは日本全体の高齢化率である29.1%よりも高い数値となっています。

また、令和2年の要介護・要支援等の認定者は577名となり、これは高齢者人口の14.1%を占めています。下表のとおり、その数は緩やかですが増加傾向にあります。

要介護者が増加するということは、在宅で介護を受ける方が増えるということです。同時に、在宅介護者（ケアラー）も増加していくのです。

年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年/ 令和元年	令和2年
高齢者人口(人)	3,839	3,939	4,059	4,172	4,240
高齢化率(%)	27.5	28.5	29.6	30.8	31.6
要介護・要支援等認定者数(人)	552	545	555	575	577

出典：神川町高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

『ケアラー』とは？

こころやからだに不調のある人の「介護」「看病」「療育」「世話」「気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人のことです。（一般社団法人日本ケアラー連盟より）

こんな方がケアラーです



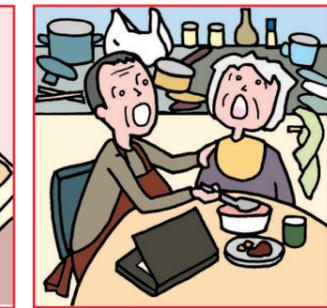
障害をもつ子どもを育てている



健康不安を抱えながら高齢者が高齢者をケアしている



仕事と介護でせいっぱいでほかに何もできない



仕事を辞めてひとりで親の介護をしている



遠くにひとりで住む高齢の親が心配で頻りに通っている



目を離せない家族の見守りなどのケアをしている



アルコール・薬物依存やひきこもりなどの家族をケアしている



障害や病気の家族の世話や介護をいつも気にかけている

©一般社団法人日本ケアラー連盟